

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371100948
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス七反野
訪問調査日	平成20年5月13日
評価確定日	平成20年6月10日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371100948
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス七反野
所在地	名古屋市港区七反野一丁目904 (電話) 052-303-2256

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年6月10日

## 【情報提供票より】(平成20年4月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年12月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	22 人	常勤 8人, 非常勤 14人, 常勤換算 5.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (172,500 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年4月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	6名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81 歳	最低	57 歳	最高	93 歳
協力医療機関名	医療法人まいさ会 近藤クリニック				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の中に2階建てのホームがあり「友とふれあう我が家があります」をモットーに、職員は家庭的な雰囲気の中で、入居者の気持ちや思いを大切に、コミュニケーションを取りながら、より多くの笑顔が見られるように個別ケアを大切にしている。また、地域のいろいろな行事に参加したり、介護相談の張り紙を外に掲示し、地域との交流を大切にしている。敷地内の畑には夏野菜のキュウリ、ピーマンなどの苗が植えてあり、四季に合わせた野菜を栽培し収穫を楽しむことができる。庭にはテーブルと椅子があり、池で泳ぐ鯉を見ながらコーヒータイムや広いウッドデッキでは時々食事やバーベキューをして楽しんでいる。開所当時から猫を1匹飼っており、入居者の癒しになっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題が特に無かったが、職員はより質の高いサービスの提供ができるように話し合いを行った。地域の方からいろいろな声をかけてもらうようになり、行事に参加する機会が多くなった。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行うにあたり、より理解しやすいように厚生労働省のガイドラインと一緒に配布し、全職員が取り組んだ。職員から「改めて見直すことができ、意識の向上になった」との声があった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者、民生委員、福祉事業関係者、代表、ホーム長、管理者の参加のもと、2カ月に1回開催している。会議では入居者、職員の状況や行事報告などを行い、地域代表の民生委員の方から地域に関するいろいろな情報を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時に職員からコミュニケーションを図り、意見や苦情など言いやすい雰囲気づくりを心がけている。家族からの意見や要望は申し送り時に報告を行い、申し送りノートにも記載して情報を共有している。また、玄関に意見箱を設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「地域との交流を大切に、誰とでも笑顔で挨拶、気軽に立ち寄れる雰囲気作り、楽しみながら地域行事への参加」をホーム独自の理念とし、地域のお祭りや盆踊りなどに参加したり、近所のスーパーへ買い物に行くことで、馴染みの関係になっている。散歩時には笑顔で挨拶を交わし、ゴミ拾いも行っている。また、こども110番や介護相談の張り紙を外に掲げている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他に地域密着型サービスの意義を職員で確認し、事業所と地域の関係性を謳った独自の理念をつくりあげている。地域との関わりを積極的に取り組み、入居者、職員が地域の一員として交流を大切にし、地域から愛され必要とされる事業所でありたいとの思いでケアの提供に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人とホーム独自の理念が各ユニットの見やすい場所に掲示してある。理念について月に1回行われるミーティングで話し合いの機会を持ち、意識づけをしている。家庭的な温もりの中で笑顔があり、我が家のように職員は「行ってきます」「ただいま」と声をかけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、散歩時にはゴミ袋を持参してゴミ拾いを行ったり、地域の人との挨拶を心がけている。地域の盆踊り、小学校の運動会、地区会館の文化展やお祭りなどに参加したり、大正琴や歌謡ショーなどのボランティアの慰問もあり、積極的に地域住民と交流を図っている。また、こども110番の看板や介護相談の張り紙を外に掲げている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価では改善項目が無かったが、職員と話し合い、より質の高いサービスの提供に努め、地域との交流が多くなり、いろんな方が声をかけてくれるようになった。自己評価をするにあたり、職員には理解しやすいようにガイドライン（厚生労働省）が配布され、全職員が取り組み、日々のケアの振り返りや見直す機会になった。また、外部評価について、職員は第三者の客観的な視点として捉え、実施する意義をよく理解していた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は入居者、民生委員、福祉事業関係者などの参加のもと、2カ月に1回開催している。会議では入居者や職員の状況、行事予定などの報告を行い、地域の方から意見や情報を得て、サービスの向上に努めている。職員には議事録を作成してミーティング時に報告し、出席できない職員には回覧して情報を共有している。</p>		<p>地域の代表として民生委員の方が参加しているが、地域の理解と支援を得るための貴重な機会として、町内会の代表や地域住民、家族の代表など積極的に参加してもらえよう働きかけていくことを期待したい。また、参加メンバーから活発な意見、要望、アドバイスなど双方向的な会議になるよう期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>2～3カ月に1回開催される港区の事業者会（介護事業所の集り）に参加し、区役所や社会福祉協議会の方の意見を得ている。保護係に書類を出しに行った時に相談や情報収集をして連携している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に、入居者の様子や状況を職員が報告している。月に1回、月間の行事予定表と2カ月に1回、写真（外出ツアー、外食ツアー、お誕生会など）と職員のコメントを書いたカラー印刷の「フレンズ通信」を家族に送付している。場合によっては電話で報告することもある。金銭管理は職員が小遣い帳に領収書を貼り、収支を記入し、家族や権利擁護事業の方に確認してもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人であるフレンズハウスとして家族会がある。家族の面会時に職員が声かけして、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている。出された意見、要望などは申し送り時に話し合い、反映させている。苦情相談窓口や外部の相談窓口について、入居時に説明を行っている。また、玄関に意見箱を設置している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム長は職員との話し合いの機会を持ち、ストレスケアや意見交換などを行い離職を抑える取り組みをしている。退職の時は自然の流れの中で何も言わず、新しい職員を紹介して先輩職員に付き添い、入居者のダメージを少なくするよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や3カ月に1回法人の内部研修があり、職員は交代しながら参加している。研修報告は勉強会を開いて発表してもらい、出席できない職員には資料を配布し、職員の知識向上に繋げている。日常生活の中で職員同士でお互いにアドバイスをしながら、スキルアップを行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護事業所の集まる港区事業者会に参加し、同業者や他種の事業所との交流の機会にしている。介護フェアや研修会などにも参加し、情報交換を行い質の向上に励んでいる。また、法人内での他事業所とも定例会があり、サービスの向上に努めている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に見学に来てもらい面談を行い、希望があれば体験入居もできる。本人の納得を得ないまま入居されるケースは無いが、コミュニケーションを密にし不安を少なくして、安心して生活ができるような環境づくりに努めている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の体調を見ながら食事作りや食器洗い、洗濯物干しなど職員と一緒にしている。タオルならたたむことができる入居者にはお願いして、できるだけできることを見つけ、共に支え合う関係を築けるよう支援している。日常生活を共に過ごしている中で、職員は入居者から「大変だね」「ご苦労さま」などの言葉をかけてもらったり、調理の仕方、畑作業、裁縫など入居者から教えてもらうこともよくある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりにおいて、職員は入居者に寄り添いながら、個別でゆっくり話をする時間を持つことを心がけている。その会話の中から一人ひとりの希望や意向などを聞き取り、把握に努めている。意思疎通の困難な入居者には家族から情報を得て、いろいろ確かめながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングやケアカンファレンスで入居者の状態について職員と話し合い、意見を介護計画に反映させている。最終的にケアマネジャーが確認し介護計画を作成している。ケアカンファレンスには、家族にも参加してもらえよう声をかけており、面会時にも説明し意向を聞いている。本人とは日常の会話の中から要望を確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1階はホーム長、2階は管理者が介護計画のモニタリング（評価）をしている。また、ケアプランチェック表に計画に対する実施内容を毎日記載している。毎月のミーティングで入居者全員の状態について確認しており、3カ月毎にケアチェック表でアセスメントし見直している。見直しに伴いケアカンファレンスを開き話し合っているが記録としては残されていない。</p>		<p>グループホームの介護はチームで入居者を支援することであり、アセスメント、本人の状態の把握、ケアの実施、見直しが確実に行なわれている。本人の課題だけではなく、長所や好きなことを継続してもらえよう本人の視点に立った介護計画を作成していることから、ケアカンファレンスの記録を残されることを検討されたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護相談の張り紙をしている。現在は、グループホームについてや、見学などの問い合わせが多いが、自宅で介護されている地域の方の力になりたいと啓発している。医療連携体制加算を受けており、24時間健康管理、医療に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎週1回、提携医療機関である内科医と訪問看護の往診があり、入居者全員が受けている。また、年2回健康診断を実施している。提携歯科医の往診もあり、定期ではなく状況に応じてお願いしている。希望者はマッサージやリハビリなど訪問リハビリを受けている。他科への病院受診については、原則家族に付き添いをお願いしている。受診後に家族から職員が報告を受け、連絡事項を申し送りノートに記載し情報を共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」があり、入居時に本人や家族に説明し同意をもらっている。提携医療機関は24時間対応可能な体制であり、週1回の往診や訪問看護を受け健康管理に努めている。職員の中に看護師もいることから入居者や職員の安心に繋がっている。終末期の経験はないが、ホームとしては本人や家族の希望があれば、できるかぎり対応していきたいと考えている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入職時に守秘義務について誓約書を交わしている。日常記載する記録はキッチンのカウンターで保管し、見守りも兼ねながらそこで記入しているが、席を離れる場合など入居者の目に触れないよう注意している。入居者の部屋に入る時はノックし、声をかけてから入るようにしている。管理者は日々の関わりの中で、入居者の前で他の入居者についての話はしないよう職員に話している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、本人のペースを大切にできるだけ個別性のある支援を行っている。行事やレクリエーションなどいろいろ参加する機会があり、声かけはするが、この時間だからこうしなさいと強制はしない。一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、コミュニケーションを取りながら、自己決定を重視した支援を心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、入居者と職員が一緒に行なっており、2階ユニットでは、男性の方がエプロンをして積極的に参加している。「今日の味はどうですか?」と作った入居者が他の入居者に意見を聞いている姿が訪問時に見られた。1階、2階ユニットでは、それぞれ入居者の介護度の状態も異なるが、後片付けや洗い物など本人のできることを行なってもらえるよう、職員は声をかけ支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は日曜日以外、毎日稼働している。おおよそ1日置きに入浴している方が多い。要望があれば毎日入ることも可能である。1階にはリフト浴が設備されており、現在は使用している方はいないが、重度の方でも対応できる。菖蒲湯やゆず湯など、季節感を大切にしてお風呂を楽しんでもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなこと、できることはできる限り本人に行なってもらえるよう職員は声かけをしている。クラブ活動であるレクリエーションが多様(生花、塗り絵、ドリル、卓球など)であり、行事も月に数回行っている。入居者の得意なことだけではなく、新しいことへも挑戦することで、新たな楽しみや発見に繋がっている。家族アンケートの結果からも入居者の生き生きとした表情が見られると評価されている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩が好きな方も多く日常的に行なっている。週1回は車で出かける遠出を実施している。近所のスーパーに入居者と職員が一緒に出かけたり、外出ツアーを計画しデパートに買い物に行くなど入居者の希望に添うよう努めている。天気の良い日には、庭でティータイムを楽しむこともある。年2回の日帰り旅行や年1回、1泊旅行があり入居者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中オープンにしている。フロアの扉を開けると、鈴の音が鳴り人の出入りが分かるようにしている。職員には、鍵をかけないケアの大切さを常に意識するようにホーム長は伝えており、「開けていることが普通」の感覚を大事にしている。また、積極的に外出の機会を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画を立て、年2回防災訓練を実施している。防災会議で段取りを決め、入居者も一緒に訓練に参加し反省会を実施して課題、対応策を検討している。8月に町内会の消防訓練が実施されることから、訓練にホームも参加できるよう現在依頼している。マニュアルが整備され、設備点検も実施されている。災害時の備蓄品については、ホーム内の倉庫に水、食料などを用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は担当職員が立て、主任やホーム長が確認している。1日のおよその摂取カロリーまでは把握していないが、バランスの良い季節感のある献立づくりに努めている。水分は食事の汁物を含め、1日1以上摂取することを目安としている。毎月の体重測定や定期的な健康診断の実施により、日々の健康管理に努めている。		日々の健康管理、適度の運動を心がけている。体重増加に伴い、介護計画にあげ取り組んでいる人もいる。バランスのよい献立に努めていることから、専門職のアドバイスや助言をいただくなど献立の見直し、確認についても検討されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットのリビングにあるテーブルには、入居者がフラワーアレンジメントで生けた花や職員が自宅から持ってきた花が飾られている。花の好きな方も多く、自然と花のことについて話の輪や笑顔が広がっていく。壁には季節感のある飾り物や行事、外出の時の写真が掲示されている。また、入居者の作品、日めくりなども飾られており、ユニット毎に特徴が出ている。窓枠が大きく取られ、日当たりもよく風通りも穏やかで心地よい環境づくりがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には花の名前がついており、本人の写真や名前が飾られ分かりやすい表示となっている。居室には使い慣れた家具や小物、テレビなどが持ち込まれている。家族の写真飾っている人もいる。朝の掃除は、入居者と職員が一緒に行い、清潔を保っている。飲みたい時に水分を摂れるよう、ポットにお茶をいれ居室で飲んでいる人もおり、摂取量が分かるよう小さなメモに摂取量を記載している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。